

授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
都市文化研究	大倉 恭輔	<p>学生が何をどこまで知っているか（あるいは知らないか）を確認することは、授業を進める上でのポイントとなります。そもそも、大倉はどの授業においても「知らないことを知るために学校に来ている」と説明しています。いずれにせよ、そういう意味での質問でありことを理解してもらえと助かります。</p> <p>また、「都市文化ではなく渋谷文化」という指摘ですが、渋谷を素材に都市を考えていくという手法です。</p> <p>いずれにせよ、これまでと異なり、受講生の満足度が低いのでいろいろと考え直してみます。</p>
Workshop B	三田 薫	<p>多くの学生が授業内容に興味を持って受講してくれたこと、また「実際に海外の人と話すことによって正しい発音や文法を学ぶことができた。」「英会話をやることに対する不安が少しずつ消えた。」というコメントをいただき、この授業の目的が達せられたと感じています。</p>
ListeningA(E②)	霜田 敦子	<p>この授業の目的はリスニング力とスピーキング力を向上させることでした。「この授業を通して自身の成長が実感できましたか」の項目で90%以上の学生が「あてはまる」と回答していたので本当にうれしく思いました。皆さんもよく頑張りました。後期もさらに頑張ってください。</p>
英語学A	藤原 正道	<p>回答してくれた皆様ありがとうございます。1時間目から大変だったかと思いますが、欠席の多さが気になります。もともと高校までなじみのない言語学の内容が欠席すると、より難解になってしまいます。さらによりよい講義ができるよう努力します。</p>
観光概論	武内 一良	<p>観光に興味を持っている学生にとっても、観光を学問として理解するためには様々な知識が要求されます。その意味で、この授業は難しい科目の一つではないかと思えます。しかも必修科目であるため、学生からの評価は低くなる可能性があります。この授業を通じて自分の成長が実感できたという回答が57名中42名（73.7%）で、総合的に判断してこの授業に満足したとする回答も同じく42名（73.7%）という評価であったことは嬉しい結果でした。さらに、説明が分かりやすかったが45名（78.9%）、質問のしやすさ等が48名（84.2%）、板書や配付資料が分かりやすいが45名（78.9%）、声が聞き取りやすかったが53名（93.0%）と高い評価を受けたことも今後の励みになります。難しい授業に耐えてついてきてくれた学生たちに感謝したいと思います。</p>
異文化コミュニケーション論	久保田 佳枝	<p>アンケートにご回答ありがとうございます。異文化コミュニケーションは国際コースの必修科目でありながらも授業中の発言が総合成績で一定の割合を占める評価体系となっているため、皆さんが講義の序盤頃は大変な思いをされたことと存じています。高校までの受け身の授業から多くの学生さんが成長し、授業中に勇気を持って能動的に発言してくれたことに、科目を担当した私も嬉しく思っています。世界を相手に渡り歩くためには、単に英語が話せるだけでは不十分です。その事を理解し、これからも留学や海外生活等への準備として、主体的・能動的に行動するように心がけましょう。</p>
観光英語	武内 一良	<p>この授業は英語が得意でない学生を対象としたものですので、授業の速度や分かりやすさを重視しました。32名の回答者の中で、授業の進むスピードが適切と答えた学生は28名（87.5%）、説明が分かりやすかったと答えた学生は25名（78.1%）、板書や配付資料が分かりやすかったと答えた学生は28名（87.6%）とまずまずの結果を得たことは嬉しく思います。総合的に判断してこの授業に満足した学生は28名（87.6%）と高かったことも励みになります。次年度もさらなる高みを目指して切磋琢磨していきたいと思えます。</p>
発音演習A	藤原 正道	<p>回答してくれた皆様ありがとうございます。1時間目から発音に歌にと大変だったかも。授業開始15分前から教室に入り準備をして、終了時刻を越えてしまうこともありました。でも、楽しそうに歌の練習する姿が見られたのは何よりです。ますます発音が上達することを願うばかりです。</p>
WritingA(E⑤)	藤原 正道	<p>回答してくれた皆様ありがとうございます。必修科目ですので、選択の自由のない中、英文法や英作文の基礎を再確認する意義を見つけてくれたでしょうか？WritingAの内容を忘れずに後期のWritingBの応用編へつなげていきましょう！</p>
英語音声学A	萩野 敏	<p>履修者数122という大教室での講義で、音声を扱うには、あまりよい学修環境ではなかったと思います。「授業内容に興味があったから」という理由で履修した学生が半数近くいたのに対して、約4分の1の受講者が「空き時間があつたから」という理由で履修していました。一方で、講義内容を理解しようと真面目に取り組んでいた履修者が少なくなかったとも思います。</p>
比較文化論A	久保田 佳枝	<p>アンケートにご回答ありがとうございます。この授業では各学生の異なる意見を知ることを通して「みんな違ってみんないい」という身近にある文化の違いを知って頂きながら、日本と諸外国の文化の違いをみてきました。講義形式の授業でしたが、皆さんからの活発な発言があり、実のあるディスカッションも数多くできましたね。講義回数が進むにつれて、皆さんが学年や意見の違いに関係なく自分の意見を発言・発表できるように成長してくれたことに、科目を担当した私も大変嬉しく思います。引き続き他の授業も、この調子で取り組んでいきましょう。</p>

[2019（前期）英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
コンシェルジュ論	池田 里香子	人と人との関係性、おもてなしの方法も大きく変革する中で、学生達とのコミュニケーションを出来るだけ大切に授業を実施。コンシェルジュという職業観、ホスピタリティの精神を、ぜひ様々な職種に就かれる上で、人との関わり、コミュニケーション力、そして学生の皆さん自身の人生観についても活用してもらいたい。
旅行実務	古谷 昌重	本授業の履修及びアンケートへの回答ありがとうございました。国内旅行と海外旅行の両方の基礎を半期で行なったため、実に広範な内容に取り組んでもらいました。そのため、学修する内容も多く大変だったと思います。しかし、皆さん毎回真剣な態度で授業に取り組んでもらいました。旅行関連業界を目指す人もそうでない人も「旅行」に対する理解と関心が深まり、また、これまで一旅行者の視点で見えていたものが、旅行を実施する側の視点からも見られるようになったならば幸いです。今回のアンケート結果を踏まえ、講義内容の絞込みや教材の工夫など、より理解しやすい授業のための改善を図ってまいります。資格取得を目指す人は今回の授業を取り掛かりに更に学習を深めて頑張ってください。
キッズイングリッシュ	三田 薫	内容がわかりやすかったという結果で、また「楽しみながら基本的な英語をしっかりと学ぶことができました。」「みんなと協力して毎回授業を行っていたので、協力が身に付きました。」「子どもへの英語教育は子供目線になって考えて、楽しくなるように工夫することが大切だということがわかった。」「といったコメントをいただき、この授業の目的が達せられたと感じています。
Workshop C	三田 薫	多くの学生が授業内容に興味を持って受講してくれたこと、また「外国の人と話すことに抵抗を感じなくなった。英語で伝えようと努力するようになったし、日ごろから、こういいたいとき、どんな風に伝えればいだろうと考えるようになった。」「最初は何を言っているのかわからなかったりいいことが伝えられなかったりまったく会話になりませんでした、今ではなんとなく理解できるようになり、会話中に笑いあったりできるようになりました。」「といったコメントをいただき、この授業の目的が達せられたと感じています。
ListeningA(E③)	霜田 敦子	この授業の目的はリスニング力とスピーキング力を向上させることでした。はじめはスピードも速く小テストも難しく感じて大変だったと思いますが、たくさん聴くことで少しずつコツがわかったのではないのでしょうか。後期もさらに頑張ってください。
ListeningA(E④)	霜田 敦子	初めはスピードも速く、小テストも難しく大変だったと思いますが、「総合的に判断してこの序業に満足しましたか」の項目で90%以上の学生が「あてはまる」と回答していたのでほっとしました。後期もさらに頑張ってください。

[2019 (前期) 英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
WritingA (E②)	大島 幸治	<p>この授業においては、文法的に破綻したブロークンな英語による会話ではなく、意図するところを正確に表現できるよう英文法の基礎知識の基盤を固めることに力を置いた。「和文英訳」方式の課題プリントについて、いくつもの翻訳例を提示し、そのニュアンスの差異について詳細に説明を加えた。また「日本語表現を英語にする」という際に、英語にできるような「何がどうする、何がどうである」といったNP→VPの基本構造を整理することを重視した。また「生のままの日本語」を英語に置き換えるという発想をやめ、客観性をもった情報やメッセージへと整理するという、「和文和訳」の作業に時間を割いた。</p> <p>これは、英語学を専門的に学習するための橋渡しになるべく、英語表現について高校レベルより数段階み込んだレベルで詳細な解説を行うことを目指したものである。そのため毎回、新作のオリジナル・プリントを作成し、授業に臨んでいる。</p> <p>学習効率を上げるため、課題英作文については、複数の解答例とその分析を提示したプリントを配布した。授業では、どのような視点で英作文するかに加え、関連する文法知識について黒板に詳細に書いて説明する形式を今年度も採用した。その上で、板書する内容をカバーした解答・解説プリントを配布し、自宅での復習の便宜を図っている。このようなローテーションで授業を進め、自学自習を促している。</p> <p>前期においては、VP関連に集中した詳細な解説を行い、どこに着眼して英作文していくかについて、専門的な英語学への橋渡しになるレベルまで学生の理解を高めようとしている。</p> <p>さらにこの授業は英作文の基本を学習するための授業であるので、日常生活に必須の語彙を充実させることを目的に、毎回プリントを配布し、指定の範囲について毎回小テストを実施するというを行った。また学生の学習と資格取得へのモチベーションを高めるため、そのニーズについて、これまで授業内で学生から取材してきた結果を反映して、今年度においても前期Writing Aクラスでは、TOEICのスコアをあげる目的で、「TOEICテストの設問や出題文で使用される頻度の高い表現集」「テーマ別TOEIC単語集」という2種類のプリントを作成し、配布した。与えられた課題について、学生は概ね積極的に取り組んだと思う。</p> <p>加えて、教室内では学生との対話を重視し、英作文の作業に取り組む学生に個別の質疑や解説を加える「寺子屋」方式の指導をなるべく多く加えることで、双方向性の授業を行うよう意図した。学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってきた情報について、プリントをさらに追加・配布するなどの対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、復習する際に困らないためのサービスを提供していることにより理解を深める効果をあげているものと思われる。これにより学習内容について、十分な確認と知識の定着が図れたものとする。授業中にわからないところは自由に質問するように言っているので、学生の授業中での質問や発言のやりとりがかなりあった授業だと思われる。</p>
ReadingA (E④)	大島 幸治	<p>この授業においては、テキストに『Quality of Life』(南雲堂)を取り上げ、日常生活と健康に関連する話題の英文を読むことを中心にした。テキストの英文について、その構造の分析を板書して解説し、Discourseを踏まえて、どうしてこの語句をこのように理解、翻訳せねばならないか」という理路を明確にすることに時間を割いた。英文を理解する際に、文脈に関係なく英単語の訳を当てはめる、いわば「点」の連続のような読解スタイルではなく、英文の「旧情報→新情報」の流れ、また意味のひたかたまりをなすDiscourseの構造を理解することで、筆者の意図するところを正確に理解していく「目配り」を学修することに中心をおいた。これにより、「辞書で調べた訳語をただ当てはめて、日本語として成立していない訳文を書いても平然としている」「英文が何を言おうとしているか理解できないのに日本語に訳せる」といった倒錯した状況から脱する道が開けたものとする。</p> <p>また英文理解の視点として、「何がどうする、何がどうである」といったNP→VPの基本構造を整理することを重視した。これは、英語学を専門的に学習するための橋渡し、より本格的な英文読解への助走路になるべく、英語表現について高校レベルより数段階み込んだレベルで詳細な解説を行うことを目指したものである。</p> <p>学習効率を上げるため、テキスト英文については、その訳例プリントを配布した。これにより、自宅での復習の便宜を図っている。このようなローテーションで授業を進め、自学自習を促している。</p> <p>さらにこの授業は英文読解の基本を学習するための授業であるので、日常生活に必須の語彙を充実させることを目的に、毎回TOEICテストで必須のテーマ別単語集プリントを配布し、指定の範囲について毎回小テストを実施するというを行った。これは、学生の学習と資格取得へのモチベーションを高めるため、そのニーズについて、これまで授業内で学生から取材してきた結果を反映したものである。TOEICのスコアをあげる目的で、「TOEICテストの設問や出題文で使用される頻度の高い表現集」「テーマ別TOEIC単語集」という2種類のプリントを作成し、配布した。与えられた課題について、学生は概ね積極的に取り組んだと思う。</p> <p>加えて、教室内では学生との対話を重視し、個別の質疑に回答し、解説を加える「寺子屋」方式の指導をなるべく多く加えることで、双方向性の授業を行うよう意図した。学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってきた情報について、プリントをさらに追加・配布するなどの対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、授業ではなるべく最新の情報や知見を解説に加え、板書することで関心を高めようとした。復習する際に困らないためのサービスを提供していることにより、一定レベルの理解が得られるよう、また事後学修の便を高める効果をあげているものと思われる。これにより学習内容について、十分な確認と知識の定着が図れたものとする。授業中にわからないところは自由に質問するように言っているので、学生の授業中での質問や発言のやりとりがかなりあった授業だと思われる。</p>

[2019（前期）英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
WritingA(E①)	大島 幸治	<p>この授業においては、文法的に破綻したブロークンな英語による会話ではなく、意図するところを正確に表現できるよう英文法の基礎知識の基盤を固めることに力を置いた。「和文英訳」方式の課題プリントについて、いくつもの翻訳例を提示し、そのニュアンスの差異について詳細に説明を加えた。また「日本語表現を英語にする」という際に、英語にできるような「何がどうする、何がどうである」といったNP→VPの基本構造を整理することを重視した。また「生のままの日本語」を英語に置き換えるという発想をやめ、客観性をもった情報やメッセージへと整理するという、「和文和訳」の作業に時間を割いた。</p> <p>これは、英語学を専門的に学習するための橋渡しになるべく、英語表現について高校レベルより数段階み込んだレベルで詳細な解説を行うことを目指したものである。そのため毎回、新作のオリジナル・プリントを作成し、授業に臨んでいる。</p> <p>学習効率を上げるため、課題英作文については、複数の解答例とその分析を提示したプリントを配布した。授業では、どのような視点で英作文するかに加え、関連する文法知識について黒板に詳細に書いて説明する形式を今年度も採用した。その上で、板書する内容をカバーした解答・解説プリントを配布し、自宅での復習の便宜を図っている。このようなローテーションで授業を進め、自学自習を促している。</p> <p>前期においては、VP関連に集中した詳細な解説を行い、どこに着眼して英作文していくかについて、専門的な英語学への橋渡しになるレベルまで学生の理解を高めようと試みている。</p> <p>さらにこの授業は英作文の基本を学習するための授業であるので、日常生活に必須の語彙を充実させることを目的に、毎回プリントを配布し、指定の範囲について毎回小テストを実施するというを行った。また学生の学習と資格取得へのモチベーションを高めるため、そのニーズについて、これまで授業内で学生から取材してきた結果を反映して、今年度においても前期Writing Aクラスでは、TOEICのスコアをあげる目的で、「TOEICテストの設問や出題文で使用される頻度の高い表現集」「テーマ別TOEIC単語集」という2種類のプリントを作成し、配布した。与えられた課題について、学生は概ね積極的に取り組んだと思う。</p> <p>加えて、教室内では学生との対話を重視し、英作文の作業に取り組む学生に個別の質疑や解説を加える「寺子屋」方式の指導をなるべく多く加えることで、双方向性の授業を行うよう意図した。学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってきた情報について、プリントをさらに追加・配布するなど対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、復習する際に困らないためのサービスを提供していることにより理解を深める効果をあげているものと思われる。これにより学習内容について、十分な確認と知識の定着が図れたものとする。授業中にわからないところは自由に質問するように言っているので、学生の授業中での質問や発言のやりとりがかなりあった授業だと思われる。</p>
ReadingA(E③)	大島 幸治	<p>この授業においては、テキストに『Quality of Life』（南雲堂）を取り上げ、日常生活と健康に関する話題の英文を読むことを中心にした。テキストの英文について、その構造の分析を板書して解説し、Discourseを踏まえて、どうしてこの語句をこのように理解、翻訳せねばならないか」という理路を明確にすることに時間を割いた。英文を理解する際に、文脈に関係なく英単語の訳を当てはめる、いわば「点」の連続のような読解スタイルではなく、英文の「旧情報→新情報」の流れ、また意味のひたかたまりをなすDiscourseの構造を理解することで、筆者の意図するところを正確に理解していく「目配り」を学修することに中心をおいた。これにより、「辞書で調べて、訳語をただ当てはめて、日本語として成立していない訳文を書いても平然としている」「英文が何を言おうとしているか理解できないのに日本語に訳せる」といった倒錯した状況から脱する道が開けたものとする。</p> <p>また英文理解の視点として、「何がどうする、何がどうである」といったNP→VPの基本構造を整理することを重視した。これは、英語学を専門的に学習するための橋渡し、より本格的な英文読解への助走路になるべく、英語表現について高校レベルより数段階み込んだレベルで詳細な解説を行うことを目指したものである。</p> <p>学習効率を上げるため、テキスト英文については、その訳例プリントを配布した。これにより、自宅での復習の便宜を図っている。このようなローテーションで授業を進め、自学自習を促している。</p> <p>さらにこの授業は英文読解の基本を学習するための授業であるので、日常生活に必須の語彙を充実させることを目的に、毎回TOEICテストで必須のテーマ別単語集プリントを配布し、指定の範囲について毎回小テストを実施するというを行った。これは、学生の学習と資格取得へのモチベーションを高めるため、そのニーズについて、これまで授業内で学生から取材してきた結果を反映したものである。TOEICのスコアをあげる目的で、「TOEICテストの設問や出題文で使用される頻度の高い表現集」「テーマ別TOEIC単語集」という2種類のプリントを作成し、配布した。与えられた課題について、学生は概ね積極的に取り組んだと思う。</p> <p>加えて、教室内では学生との対話を重視し、個別の質疑に回答し、解説を加える「寺子屋」方式の指導をなるべく多く加えることで、双方向性の授業を行うよう意図した。学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってきた情報について、プリントをさらに追加・配布するなどの対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、授業ではなるべく最新の情報や知見を解説に加え、板書することで関心を高めようと試みた。復習する際に困らないためのサービスを提供していることにより、一定レベルの理解が得られるよう、また事後学修の便を高める効果をあげているものと思われる。これにより学習内容について、十分な確認と知識の定着が図れたものとする。授業中にわからないところは自由に質問するように言っているので、学生の授業中での質問や発言のやりとりがかなりあった授業だと思われる。</p>

[2019（前期）英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英米言語文化論A	萩野 敏	履修者数89という大人数の講義で、あまりよい学修環境ではなかったと感じます。「授業内容に興味があったから」という理由で履修した学生は全体の4割程度(30名)だったのに対して、ほぼ同数の29名が「空き時間があったから」という理由で履修していました。一方で、講義内容を理解しようと真面目に取り組んでいた履修者が少なくなかったとも思います。総合満足度は全体の平均を少し上回りました。
Grammar&UsageC	久保田 佳枝	履修者全員よりアンケートにご回答いただきありがとうございます。この授業は、英コミを卒業する前に「これだけは理解して欲しい」という英語構文や語法を集中的に学ぶ内容になっておりましたが、レベル別ではなかったため、学生の皆さんの英語レベルによっては、難しく感じたり、また反対に簡単すぎると思われたり、とあったかと思えます。英語は、地道に勉強を継続することで使えるようになります。ですので、簡単すぎると思われた学生さんも今一度教材の総復習をおすすめいたします。また難しいと感じた学生さんは、教材の単語や語法を覚えることを継続して行っていきましょう。
卒業演習A	大倉 恭輔	もっと積極的に動いてください。
卒業演習A	萩野 敏	回答率が40.0%と低めでしたが、全体的にとっても高い評価を得ることができました。学生の発表が中心となる演習なので、この形式の授業評価にはやや戸惑いがあるように見受けられました。
卒業演習A	藤原 正道	回答時間（日数）が少ない中、回答してくれた皆様、ありがとうございます。資料を作り発表し、聞き手からは活発な発言、意見ができたことは素晴らしいことです。卒業演習Bも頑張りましょう。課題の提出も忘れずに！
卒業演習A	三田 薫	「紙芝居を英語で作ったので、英語力や折り紙の折り方、チーム力が前より上がったように感じる。」「英語を学ぶとともに、国際交流もできるところが良いと思う。」といったコメントをいただき、皆さんの研鑽力、協調性、国際的視野の力が伸びたと実感しています。
卒業演習A	武内 一良	21名の履修学生の内、アンケートに答えた学生が5名と少なく、データの信頼性は低いのですが、分かりやすさで60%、総合的に授業への満足も60%とまだまだ改善の余地があることを認識し、後期の授業で改善を図りたいと思います。
卒業演習A	久保田 佳枝	アンケートにご回答ありがとうございます。ほとんどの皆さんが就職活動中ということもあり、定期的な出席が難しい学生さんも多く見受けられましたが、課題にはきちんと取り組んでいただき、ありがとうございます。ディスカッションでは、理論的背景や皆さんの体験等をもとに、数々の意見が出され、また毎回変わるファシリテーターの話のまとめ方など、皆さんの着しい成長をみることができました。後期もこの調子で楽しくコミュニケーションに関する学びを深めていきましょう。

[2019（前期）英語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Grammar&UsageC	大島 幸治	<p>この授業においては、参加者の英文法の基礎知識の基盤を一層、固めること、英語学を専門的に学習している2年生が、その学修内容と自分の学力向上を確認することを目指している。そのため一方にTOEICテストの文法問題に対応できること、他方にビジネス現場で必須の表現やニュアンスの使い分けについて学習するオリジナル・プリントを作成し、授業に臨んでいる。英文法の重要項目と表現について、Grammar & UsageA, Bで学習した内容を確認、定着を目指して、「英作文する」というプロセスを重視した。この授業においては、文法的に破綻したブロークンな英語による会話ではなく、意図するところを正確に表現できるよう英文法の基礎知識の基盤を固めることに力を置いた。「和文英訳」方式の課題プリントについて、いくつもの翻訳例を提示し、そのニュアンスの差異について詳細に説明を加えた。この方式は、英文法に関する学習内容の確認、定着のためには非常に有効なものであったという印象を得た。</p> <p>また「日本語表現を英語にする」という際に、英語にできるような「何がどうする、何がどうである」といったNP→VPの基本構造を整理することを重視した。また「生のままの日本語」を英語に置き換えるという発想をやめ、客観性をもった情報やメッセージへと整理するという、「和文和訳」の作業に時間を割いた。するテスト形式のプリントを授業内で演習した。</p> <p>当初は、TOEICの文法語彙問題対策の演習プリントを用意したので、それを授業内で演習することで授業を進める予定であったが、基礎知識に不安があるとの声やTOEIC問題では難しすぎるとの声を受け、予定を一部変更して、上記のような英作文のウェイトを増やした。TOEIC対策プリントについては、解答と詳細な解説、訳を付したプリントを用意して、自宅での事後学修に不便がないようにしたつもりである。これにより学生は、将来、就職した際にも役立つ英文法知識を学修できたものと考えられる。知識の上で補強した部分については、ハワイ大学によるJapaneses ancestryの英語学習者に共通してみられる文法的誤り報告を踏まえて焦点をあてたものとなっている。</p> <p>さらにこの授業は英文法の基本を学習するための授業であるが、学生のモチベーションを高めるため、そのニーズについて授業内で学生から取材している。それにより今年度においても前期Grammar & Usage Cクラスは、TOEICのスコアをあげる目的で下記のプリントを作成し、配布し、毎回、指定箇所の小テストを実施した。与えられた課題について、学生は概ね積極的に取り組んだと思う。</p> <p>課題としたプリントとは、 「生活やビジネス・シーンで頻出する語彙を強化するためのテーマ別プリント」である。</p> <p>加えて、教室内では学生との対話を重視し、英作文の作業に取り組む学生に個別の質疑や解説を加える「寺子屋」方式の指導をなるべく多く加えることで、双方向性の授業を行うよう意図した。教室内では学生との対話を重視し、学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってくる情報の収集に努めた、その情報に基づき、プリントをさらに追加・配布するなどの対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、復習する際に困らないためのサービスを提供していることにより理解を深める効果をあげているものと思われる。これにより授業前半の学習内容についても、十分確認と知識の定着が図れたものと考えられる。授業中にわからないところは自由に質問するように言うので、学生の授業中での質問や発言のやりとりがかなりあった授業だと思われる。</p>
ReadingC	霜田 敦子	<p>この授業の目的は、名作を英語で読んで楽しみまた悲しむことでした。3つの小説の皆さんのコメントには、登場人物に対するいろいろな感じ方が率直に書かれていて、この授業で心が豊かになってくれたらと願っていました。ですから、「自身の成長が実感できましたか」の項目で80%以上の学生が「あてはまる」と回答していて大変うれしく思いました。</p>